

私のエネルギー

丸山 美樹さん (17歳・三郷明盛)

←三郷の自宅前で、「近所の人たちからの応援が大きな励みになります」



日本のトップクラスを狙う

今シーズン群馬県で開催された全日本ジュニアスキー選手権のスノーボードアルペン競技回転と大回転の2種目で優勝をするなど、プロのスノーボーダーとして日本のトップクラス入りを狙う丸山美樹さん。冬は県内外で開催される大会に出場し、夏は冬の競技に備えて筋トレや走り込みに励むなどスノーボードに打ち込む毎日を送っています。

スノーボードとの出会いについては、「5歳から、まずスキーを始め、スノーボードは6歳から始めました。スキーをしているところ、ゲレンデをさっそうと滑るスノーボーダーを見て自分もやってみたいと思ったのを記憶しています。当時はスノーボードが登場したばかりで、目新しさ、保育園から始めたスキーに飽きていたという気持ちもあったと思います」と振り返ります。

美樹さんが活躍するスノーボード回転・大回転は、コースに設けられた旗門を通過しながらタイムを競い合う競技です。この競技の魅力については、「『回転・大回転』は100分の1秒でも遅ければ負けという結果が分かりやすい競技。『ハーフパイプ』など、審判員に採点されて順位が決まり、納得がいかが残るより、結果がすぐ分かるところが魅力」と話します。100分の1秒を競う細やかな調整が必要な競技の世界で「常に攻める気持ちを忘れずに、元氣よく滑りたい」と話す美樹さんの果敢な挑戦がこれから続きます。

美しい自然、人とのかわり合いが、力を与えてくれる

「安曇野から育った選手として、日本の看板をつけ、世界の舞台で活躍したい」

手紙を書くことが好き

美樹さんは、スノーボードを通して全国に友だちができました。「同じスポーツに打ち込む仲間として、大会のこと、技術的なことを気軽に話すことができず。でも、冬の間、年に数回しか会えないのが寂しい」と全国のライバルたちのことを話します。「なかなか会えない仲間とは手紙を交換しています。学校や部活のことなどいろいろなことを書きま

安曇野のきれいな空がエネルギー

届くところはいいと思いますが、遠く離れた友だちのことを思いながら手紙を書いて、友だちからも同じような気持ちで書いてくれた手紙を待っているのがワクワクして好きなんです」と顔をほころばせました。

す。携帯電話のメールはすぐに

「小さいころは、とにかく元気が良く、男の子に負けたくないくらいやんちゃで、体を動かすことが大好きでした。小学校では新体操を、中学校では陸上部に所属しました。自然のなかでの遊びや、違うスポーツの経験によってバランス感覚を養うことができたと思います」と幼少のころの環境が現在の自分に大きな影響を与えていると話す美樹さん。「澄んだ空気を感じ、晴れている青い空、きれいな星

世界を舞台にした活躍を誓う

最後に今後の抱負について聞きました。「高いレベルの大会になると、勝負は技術というより、自分の実力を本番でいかに発揮できるかが鍵となります。メンタル面のトレーニングに力を入れ、スタンプ前の気持ちのコントロールや本番ですべてを出し切れるように心身ともに成長したいです。そしてワールドカップに出場し、いい成績を残し、多くの人に元気を与える滑りを目指したいです。安曇野から育った選手として、日本の看板をつけて世界の舞台で活躍したいです」と安曇野から世界を見据えます。



←女子では珍しい
グーフィースタンス